

第2号議案

社会資本整備総合交付金事業(河川改修)
一級河川 井野川 高崎市

着手年度
評価理由

平成27年度
10年継続
事業費の増額

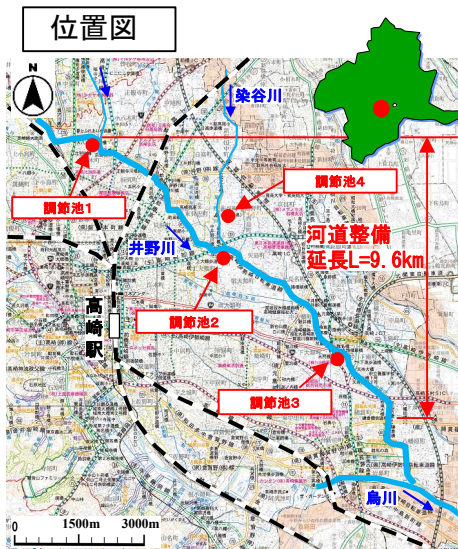
1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ

政策1: 災害レジリエンスNo.1の実現

施策3: 防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- 井野川は高崎市を流下し、烏川へ合流する流域面積93.5km²の一級河川である。
- 本事業区間の沿川は、都市化が進んでいる地域であり、浸水被害が度々発生している。
- このため、河道整備や洪水調節池の整備を行うことで、年超過確率1/30の規模の洪水を安全に流下させ、河川氾濫による浸水被害の軽減を目的として事業を実施するものである。



事業場所	高崎市岩鼻町～高崎市大八木町	
区分	従前の計画公表値	今回
全体事業費	9,000百万円	11,400百万円
全体事業費増減の理由	—	・調節池面積の増加による増額 ・資材価格や労務単価高騰による増額
事業期間	H27～R12以降	H27～R19
事業内容	改修延長 9,600m 調節池 4池 計画流下能力 540m ³ /s	改修延長 9,600m 調節池 4池 計画流下能力 540m ³ /s

2. 進捗状況

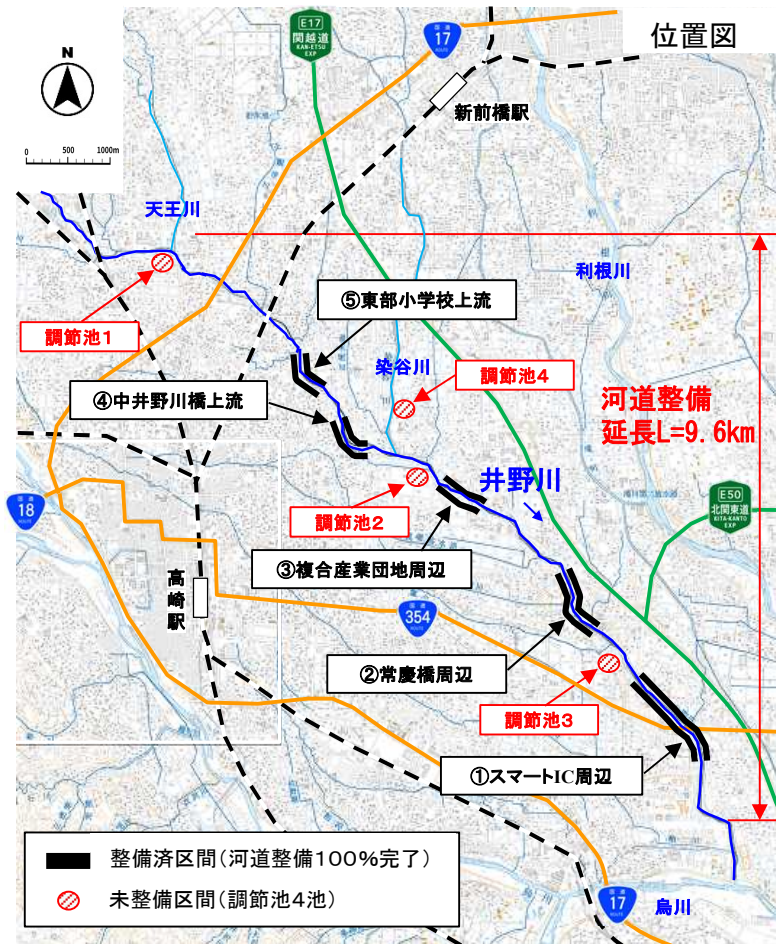
事業経緯

進捗状況

年度	主な経緯
H27	河道整備 設計着手
H29	河道整備 工事着手
R2	調節池2 設計着手
R3	河道整備 工事完了
R5	調節池2 用地調査着手

	全体計画	前年度までの進捗状況(進捗率)
事業費	11,400百万円	1,963百万円 (17.2%)
用地買収	187,500m ²	0m ² (0.0%)
改修延長	9,600m	9,600m (100.0%)
調節池	4池	0池 (0.0%)

2. 進捗状況(図面・写真等)



①スマートIC周辺 整備後



②常慶橋周辺 整備後



③複合団地周辺 整備後



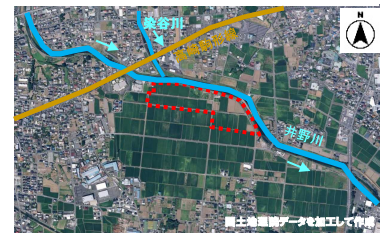
④中井野川橋上流 整備後



⑤東部小上流 整備後



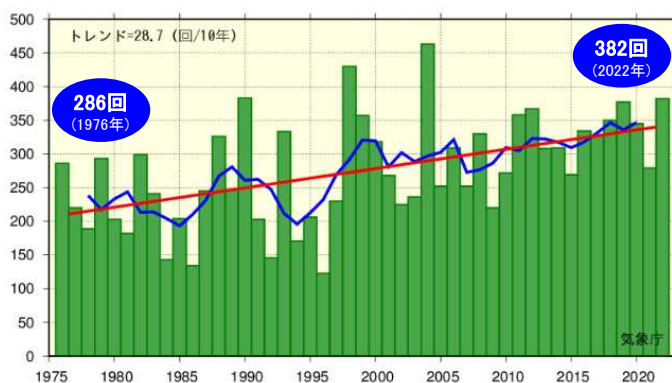
調節池2 計画予定範囲



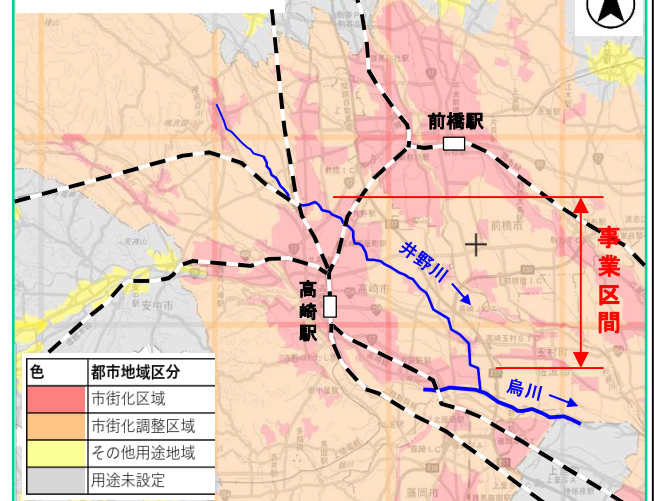
3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・気候変動の影響等により、50mm/h以上の非常に激しい降雨の発生回数が増えており、災害の頻発化、激甚化が懸念されているため、事業の必要性に変わりはない。
[286回/年(1976年)→382回/年(2022年)]
- ・年超過確率1/30の規模の洪水が発生した場合は、工業団地(宿大類工業団地ほか2団地)や家屋8,061戸、公共施設(高崎東高校など)への浸水被害が想定されるため、早急な改修が必要である。

全国「アメダス」1時間降水量50mm以上の年間発生回数



土地利用状況



4. どのような事業効果が見込めるか？

・ 流下能力の向上を目的とした河道整備を行い、さらに、一時的に洪水を貯める調節池を整備することで、年超過確率1/30の規模の洪水により浸水が想定される井野川沿川の工業団地（宿大類工業団地ほか2団地）や家屋8,061戸、公共施設（高崎東高校など）への被害を解消することができる。



費用便益分析

	事業全体			備考
	前回評価時	今回再評価時	残事業 今回再評価時	
費用合計 (C)	7,064,000千円	10,058,000千円	7,501,000千円	・工事費 ・維持管理費
便益合計 (B)	26,932,000千円	61,452,000千円	43,576,000千円	・浸水被害の軽減
費用対効果分析(B/C)	3.81	6.11	5.81	

5. 事業手法やコストは妥当か？

【事業採択時の計画(事業費)を変更する理由】

①【調節池2】池底高の変更及び計画範囲拡大による増額(+7億円)

- ・調節池2において、詳細な調査を実施したところ、当初計画していた池底高よりも高い位置で地下水位が確認された。計画どおりの池底高で整備する場合、地盤改良や遮水壁等の地下水対策に、膨大な費用がかかることが判明した。
- ・そのため、計画どおりの貯留量(20.6m³/s)を確保するため、地下水対策よりも安価な方策(浅く広い調節池)に変更したが、用地買収の面積が大きくなったことにより事業費が増額となる。

②【河道整備】資材価格や労務単価高騰による増額(+17億円)

- ・平成26年度から令和6年度で生コンクリート単価が1.4倍、また労務単価が1.3倍になるなど、近年の資機材・労務単価の急激な高騰の影響を強く受け、工事費が増額となる。

【今回の変更計画の妥当性】

- ・地下水位が当初想定よりも高いため、池底高を地下水位に合わせた高さに変更したことにより、調節池2の面積は約15,000 m²拡大したものの、地盤改良等の地下水対策が不要となることから、最も経済的な計画変更であるため、妥当である。

【事業費の縮減に向けた取り組み】

- ・調節池2の面積拡大により、事業費が増加したが、調節池の整備により見込まれる11.6万m³の掘削土搬出を近傍の盛土工事に利用することで、コスト縮減を図る。



6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- ・河道整備にあたって、良好な自然環境を形成している河岸や「みお筋」等を存置し、良好な河川環境となるよう配慮した。
- ・護岸整備にあたっては、周辺環境に調和した自然石面のブロック積護岸を採用し景観へ配慮するとともに、特に親水性が求められる場所については、川へ降りられるようにするなど河川利用者への配慮を行った。

河川環境に配慮した整備

みお筋を残した整備



環境配慮型ブロックを採用 親水性を配慮して階段設置

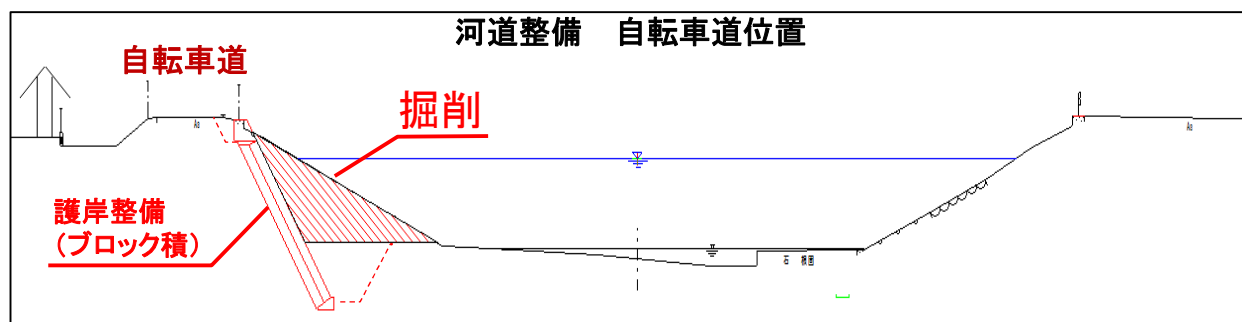
明度を抑えた 自然石面ブロック



川へ降りられるように親水性に配慮

7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

- ・河道整備9.6kmのほか、調節池が4箇所あり、4池合計で面積16.5万㎡、調節容量49.6万㎡を整備する大規模な事業であるため、元々長期計画となっている。
- ・河道整備の実施にあたり、堤防天端を使用した自転車道の迂回や通行止めを行うため、周辺住民や隣接する学校との調整及び周辺住民等に配慮した慎重な工事が必要となったことから、完成に約2年の不測の期間を要した。
- ・また、調節池2において、想定よりも地下水位が高いことが判明し、対応策の検討や整備面積が拡大することに対する地元調整等に約2年の不測の期間を要したことから、令和8年度完成を予定している。
- ・令和8年度より順次、調節池1, 3, 4の調節池整備(約4年×3池)を実施することにより、事業完了が令和19年度となる見込みである。



8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・近年、気候変動の影響等により、水害等の気象災害が頻発化・激甚化しており、毎年のように全国各地で甚大な被害が発生している。
- ・井野川においては、住宅や工業団地の立地など、都市化が進行しており、国道17号などの道路、さらにJR線も交差していることから、浸水被害が発生すると、周辺住民等に対して甚大な影響を与えるおそれがあるため、調節池整備が引き続き求められている。
- ・一方で河道整備区間は令和3年度に完了しているため、流下能力が確保された区間については、一定の治水効果を発揮している。
- ・以上のことから、本事業の必要性、重要性は高く、着実に事業効果の発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
高崎市	井野川は市の中心部を通り、大雨時の水位上昇が早いいため、注目度が最も高い河川である。治水安全度の向上を図る必要があることから、引き続き早期整備に向けて事業を進めていただきたい。